

平成 30 年 9 月 20 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～川崎港の見学会を実施～

日本船主協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運の重要性を取り上げていただくよう、教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会等を実施しております。

今般、川崎市港湾局および川崎市教育委員会の協力を得て、9月13日（木）に川崎市立中学校教育研究会社会科部会の校長・教員 約20名を対象に川崎港見学会を開催しました。

当日のバス車内では、小・中学校の学習指導要領改訂に触れながら、「川崎港はエネルギー資源・食料品・自動車など様々なものを輸出入している」「その貿易量の99%以上は海上輸送。国内輸送でも4割を担っている」「海運・港湾が一体となり首都圏の産業と市民生活を支えている」など、海運・港湾の重要性を説明しました。

同市港湾局視察船では、海側から航行するタンカーや荷役中の鉱石船・自動車船、また、コンテナターミナルやLNG基地・石油基地などを見ることができ、様々な物資を輸送している商船やそれを受け入れる川崎港は首都圏の生活・産業を下支えしていることを実感することができました。



同見学を通じて、海運・港湾をはじめとする海事産業は、日々の生活と密接に関わっていることへの理解を深める機会となりました。

参加者からは、「地元で働いているが、初めて港をみた」「海運や港湾は身近ではないと思っていた。児童にいかに日常生活と結びつけるかが重要」「詳しい説明もあり、船や港の役割を知ることができた。学校で児童に伝えたい」などの感想が寄せられました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

